素足の娘 (1957)

メディア 映画

ジャンル

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1957/09/08

【解説】

佐多稲子が窪川稲子名義で発表した同名小説を、館岡謙之助が脚色し阿部豊が監督した青春映画。父の元へ帰ってきた桃代は、父の同僚に紹介してもらい、会社の食堂で働くことになった。桃代は何人も男に言い寄られるが、それを助けてくれたのは、乱暴者と評判の安治だった。盆踊りの夜、抜歯の手術を終え倒れ込んでしまった桃代は、歯科医の川瀬に処女を奪われてしまう。川瀬は同僚の秋子にも手を出していて、しかも彼女は妊娠していた。桃代は川瀬から、秘密を守る代わりに、秋子の治療費を出させることにした。上京することになった桃代を追って、安治が駅へやってきた。安治は桃代に自分の思いを告げるが、桃代は飼い犬のチビの世話をよろしくと言い残し、旅立っていくのだった。

【クレジット】

監督 阿部豊

製作 児井英生

原作 佐多稲子

脚本 館岡謙之助

撮影 伊佐山三郎

美術 佐谷三平

音楽 斎藤高順

出演 南田洋子

長門裕之

二谷英明

大坂志郎

金子信雄

利根はる恵

小園蓉子

渡辺美佐子

堀恭子